

1・2年生活科「がっこうたんけん」

わくわく(友達・交流) 対話・交流、表現、体験等

【工夫した点・意図】

相手意識・目的意識をもって互いに交流することができるようにするために、1・2年生混合のチームで活動を行った。

【成果と課題】

- 1年生からの質問に、2年生が自分の経験をもとに説明する姿が見られた。互いに必要感をもって関わる事ができ、自然な対話が生まれ、学び合いにつながった。
- 2年生は、自分の体験を言語化する中で、気づきの質を高めることができた。
- △2年生が一方向的に説明するだけになり、1年生が受け身になってしまう場面も見られた。双方向的な対話になるような手立てを工夫していきたい。



2・3年算数科

「たし算とひき算のひっ算(1)」 「たし算とひき算の筆算」

わくわく(友達・交流) 対話・交流、表現、体験等

【工夫した点・意図】

- ・ホワイトボードに活動の流れを示しておき、リーダーを中心に、自分たちで学習を進められるようにした。
- ・ロイノート資料箱にヒントカードを入れておき、自力解決が難しい児童が活用できるようにした。

【成果と課題】

○自分の学習に支障がない範囲で、リーダーが活動を進めることができた。

△ヒントカードに頼りすぎて、自分で解決しようとしていなかった。また、ヒントカードが難しく、自分の考えにつながっていなかった。



4年社会科「水はどこから」

わくわく(友達・交流) 対話・交流、表現、体験等

【工夫した点・意図】

- ・循環型社会の実現に向けて家族の人と協力してできることについて、個人思考の後に全体で即時意見交換できるようにするためにロイロノートの共有ノートを使用した。
- ・カードの色を変え、誰がどのような意見を書いているのかを可視化できるようにした。

【成果と課題】

- 学び合いが促進し、互いに考えを共有しながら、対話が増えていった。
- 多様な考え・意見に触れることを通して、自身の考えを改め、再構築する機会になりえる。
- △個人思考の時間で十分に自分の考え・意見を持てなかった児童は、他者の考え・意見に流されてしまう傾向にある。
- △ICTを活用し共有をするためには、自分の意見をしっかりと持つことが大切であるため、共有の前に個人思考の時間を確保する必要がある。

循環型社会の実現に向けて、家族の人とできることは何だろう？						
捨てる分別する。	家族で食べ物をのこさない	物を大切に使う	物をなおして使う	リサイクルに協力する	じぶんのふくろをつかう。	
シャンプーなどは詰め替えのものを使う。	家族でごみを減らすことの大切さを学ぶ。	正しく分別する	ゴミの学習会にさんかする	食べかすを無くするために食べられる分だけつける	食品ロスを、無くす。	給食や、家で、食べるご飯は、残さないように食べる
本当に必要なものだけかうかう	一つのものを繰り返し使い、まいわつたらリサイクルをする。	洗剤は、つめかえをつかう。	ゴミ出しのきまりを守る	油は、かためてすてては、かためてすてる	マイバックやマイカゴなどをつかいプラスチックゴミを無くす	必要なものだけ買う
使えるものはさいごまでつかう。	リサイクルのために正しく分別をする。	洗剤は、まだ、古いのを捨てないように、して、置くなつたら捨てる	分別をしてしげんごみにする。	使い終わったものは、じぶんのかごまじさんする。	必要な分だけ物を買う	まだ使える物は捨てない
家の中でまだ使える物は再利用、使えない物はリサイクルをする	マイバックや、家の物をスーパーを使う	油は、固めて捨てる。	3Rを、心がける。	減らなは詰め替えができる物を買いがなプラスチックゴミを無くす	ごみ箱のある部屋じゃなくてもゴミ箱に分別する	物をたいせつにつかう。
物を最後まで、大切に扱う。	まだ使えるものはまた再利用する	別かを作る時は、食べない物や、どうせ捨てるものは、作らない	家族のみんなで分別学習会に参加する。プラスチックゴミを無くす。	分別学習会では、ルールをはりられないよう分別をする。	なおしてつかう。	使える物をギリギリまで使う
家族でごみを分別して処理する	食べ物で、賞味期限が、近いものは、早めに食べる。	マイバックを、持参する。プラスチックゴミを、無くす。	かい物で、使わない物を、買わない。	線ボールとかは、工作とか、に、使う。	なおしてつかう。	ごみ出しのルールを守り分別をする。

5年国語科「町じまんをすいせんしよう」

わくわく(友達・交流) 対話・交流、表現、体験等

【工夫した点・意図】

同学年の児童だけでなく、他学年に対しても発表することで、より多様な考えや思いを伝え合うことができるようにした。

【成果と課題】

- 5年生が6年生に発表したことで、上学年だからこそ感じる事ができる児童の良さや内容の面白さを、6年生から5年生に伝えることができた。
- 事前に5年生同士で発表会をしたが、6年生に対して発表した時の方が緊張感があり、終わった後の充実感が大きかったという感想を聞いた。
- △ICTを活用し、画面の配信等、児童同士でさらに工夫して取り組ませたい。



5年社会科「あたたかい土地の暮らし」

わくわく(友達・交流) 対話・交流、表現、体験等

【工夫した点・意図】

学んだことを自分なりにまとめ、表現することができるよう、「沖縄おすすめブック」と題した活動を実践した。児童が知りたいこと、調べたいことをノート(見開き1ページ)にまとめた。また、児童の製作物を集約し、冊子にまとめることで、友達のとの考えの交流につなげた。

【成果と課題】

- 自身の知りたいことについて調べるため、意欲的に活動できた。
 - 調べ方を事前に提示・確認することで、図書、インターネット、動画資料など、個に応じた調べ方ができた。
 - 冊子にして友達の製作物を共有することで、学習者は新たな視点や学びを得ることができた。
- △冊子をもとに、感想を伝え合ったり、批評したりする時間を設け、学びの深化を図りたい。



6年家庭科「クリーン作戦で快適に」

わくわく(友達・交流) 対話・交流、表現、体験等

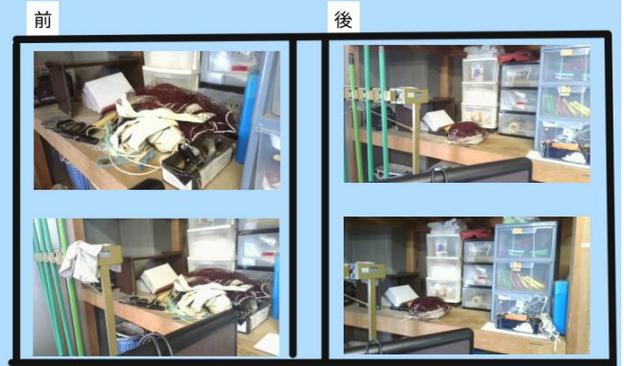
【工夫した点・意図】

- ・家庭での掃除の仕方を調べたり、教科書や動画を見たりするなど、基本的な内容を学んだ後、班で協力して計画を立てさせた。
- ・計画は、前時で撮影した写真を使ってまとめられるようロイロノートを使用し、苦手な児童も取り組めるように基本的なまとめ方を示しておく。

【成果と課題】

- 掃除計画の話合いでは活発に意見が出されており、児童の意識の高まりを感じることができた。
- 写真を撮らせていたので、写真を見せながら具体的に話し合っていた。
- 基本的なまとめ方を示しておいたことで、児童は計画の話合いに集中することができた。
- △家庭で掃除の仕方について調べてきた児童は少なく、家庭での実践の場にとどまらないうまくいかないのか課題が残った。

「そうじ前」と「そうじ後」の写真



ひまわり2年算数科「長さ」

わくわく(友達・交流) 対話・交流、表現、体験等

【工夫した点・意図】

児童の興味関心が持続するよう、本単元では、児童が「絵を描くこと」と「キャラクター」が好きということを生かした授業構成を行った。児童が描いたキャラクターの長さを測ることを通して、長さの単位を身に付けた。

【成果と課題】

- 1時間の中で2つのキャラクターを測ることを継続することで、次第に定規の使い方や長さの読み方が定着した。
- 作業に慣れると、活動意欲が持続した。個に応じた学習方法を実施できた。
- △適宜復習の時間を設けて学習内容の定着を図りたい。

